

ラベルを使う、だからこそ。



資源循環プロジェクト
Resource Recycling Project

資源循環プロジェクトとは

ラベル台紙の水平リサイクルプロジェクトです。

ラベルを製造・使用するにあたり必要不可欠な台紙を「剥離紙」から、マテリアルリサイクル可能な素材で設計された「リサイクル専用台紙」に置き換え、使用済みのラベル台紙をユーザー様から有価回収します。有価回収した「リサイクル専用台紙」をマテリアルリサイクルし、再び「リサイクル専用台紙」の原料に使用することで、資源として循環する仕組みとなっております。

01

国が推進するサーキュラーエコノミー（循環経済）の考えに則った環境価値の高い仕組みです。

02

J4CE注目事例集(2022)に選定された事業

循環経済パートナーシップ(J4CE)は、2021年に環境省・経済産業省・経団連によって発足された団体です。

循環経済への流れが世界的に加速化する中で、国内の企業を含めた幅広い関係者の循環経済への更なる理解醸成と取り組みの促進を目指して、官民連携を強化することを目的としています。

03

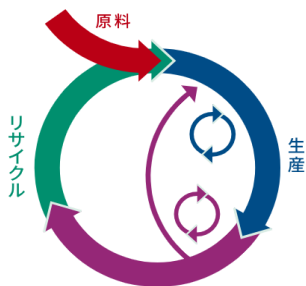
東京ドーム約30,000個分！

年に 13.9億㎡* の"やむをえない"廃棄物の解決に

*「日本のラベル市場2022」から算出

剥離紙は紙の表面にシリコンやポリエチレンといった樹脂がコーティングされている性質上、紙と樹脂が分離できずリサイクルが困難な状態にあったため、廃棄・焼却されてきました。その量は東京ドーム約30,000個分に相当します。剥離紙をリサイクル専用台紙に置き換えることで、廃棄物を生み出さない仕組みに変えることができます。

サーキュラーエコノミー（循環経済）とはこれまで経済活動の中で廃棄されていた製品や原材料などを「資源」として循環させ、設計段階から廃棄物を発生させないという考え方を軸にした経済システムです。環境省の方針において、最も環境価値が高い取り組みとされ、今後の日本経済が目指す姿と位置付けられています。



東京ドーム

×約30,000個分



剥離紙の断面図

紙とプラスチックが分離できずリサイクルが困難



2024年5月から弊社も「資源循環プロジェクト」に参画いたしました。



KYODO